

授業カスタートアップ事業資料

# 授業の基礎・基本

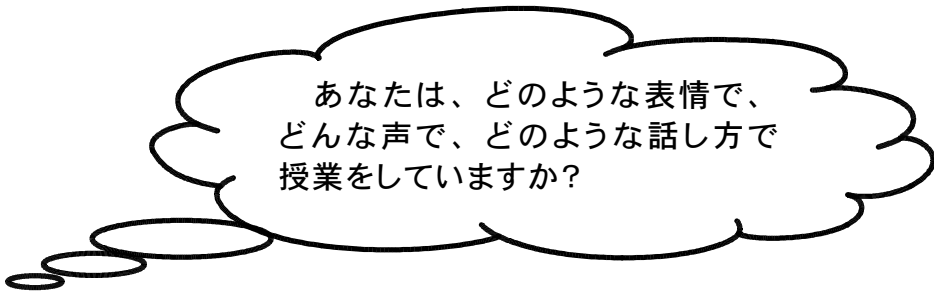
～ 0（ゼロ）から始めよう～

「ポイント」と「コツ」



福島県教育庁県南教育事務所

子どもは、教師の笑顔や声に安心感を覚え、授業に溶け込んでいきます。教師＝役者！



■ポイント1

**笑 顔**



子どもは、教師の表情をよく見ています。教師の笑顔は、子どもに伝わります。教師が笑顔でいると子どもも笑顔になります。子どもの発言に対してもいつも笑顔で応えるようにしましょう。「笑顔は、すべての教育技術に優る！」です。

※ もちろん、悲しい表情・怒りの表情も教師の考え方や教師の善悪を伝える大切な表情の技術です。

■ポイント2

**声**



声の「強弱・速度・抑揚・声色」で授業はがらりと変わります。「大きな声・小さな声」を使い分けましょう。「話す速度」は基本ゆっくりと！単調な話し方にならなよう注意し、時には朗読や説明でも「声色」を使って子どもを惹きつけましょう。

自分にあった声の出し方を工夫することです。

■ポイント3

**話 術**



特別な術ではありませんが、授業を進める中で、タイミング良く効果的に使いたいものです。

① 繰り返し

子どもが発言した内容を全員に確認して、繰り返しましょう。

② 問い直し

理由を聞いたり、関連する発言を求めたりして学習を深めましょう。

③ ぼけ

とぼけたりして、ゆさぶり、子どもの話し合いを刺激しましょう。

④ 洒落

巧みに言葉を駆使しましょう。洒落で雰囲気や和ませることも大切です。

すべての子どもに届き伝わり理解され、深く考えることができる発問を目指しましょう。

下の4つの発問について考えてみましょう。



- A 源頼朝は幕府を開きましたか？  
 B 源頼朝はどこに幕府を開きましたか？  
 C 源頼朝はなぜ鎌倉の地に幕府を開いたのですか？  
 D 源頼朝はどのようにして鎌倉幕府を開きましたか？

Aの発問の答えは「はい」か「いいえ」しかありません。また、Bの発問には「鎌倉」という答えしか出てきません。いわゆる一問一答型の発問です。

では、Cはどうでしょう？「守りやすい土地だから」「源氏のゆかりの土地であったから」「京都から離れているから」など様々な意見が出されると予想されます。しかし、Dの発問は「どのように」という言葉がわかりづらく、何を答えてよいか迷ってしまいます。

### ■ポイント1 **何を聞いているかはっきりわかる発問**

○子どもがどんなことを答えればいいのか、わかる発問を心がけましょう。

○「どのように」「どうして」のような抽象的な言葉は、子どもの立場になって理解しやすいかどうかをよく考えましょう。

### ■ポイント2 **簡潔で易しい言葉の発問**

○できる限り短いセンテンスで発問しましょう。



### ■ポイント3 **多くの答えがでるような発問**

○一問一答にならないよう発問の質を高めましょう。

## ちょっとしたコツ

① 発問をする際には、全員を教師に集中させる。

大事な発問をするときの合図のようなものをつくっておくこともいいでしょう。

② 発問は、「 」でくくるように強調する。

説明や指示などと明確に区別しましょう。

③ 発問は、できる限り一度とし、繰り返しを避ける。

聞き取る力や集中力を育むためにも、繰り返すことは避けましょう。

④ 声の高さや速さを変え、関心をもたせる。

⑤ 発問後、考える時間を確保し、全員が反応するまで待つ。

答えがわかる、答えがわからないも含めて全員に反応させることが大切です。

⑥ 重要な中心的発問については、考え（解答）をノートに書かせる。

⑦ 多くの子どもたちに発表させる。

一人や二人の意見を取り上げて先に進まない。発表内容をつないでいくことが大切です。

一人一人の子どもの考えを引き出し、広めたり、深めたりする指名ができるようにしましょう。



ある先生は、発問したあとに挙手をした子どもの数を必ず数えるようにしています。(時には数を唱えながら)それは、発問に対し素早く反応した子どもをすぐに指名しないようにするためです。また、大切な発問には必ず考えをノートに記入させ、机間巡視をして子ども一人一人の考えを把握し、指名に役立つ先生もいます。

指名の仕方によっては、子どもたちの話し合いが活発になったり、学習意欲が高まったりするのです。

## ■ポイント1 **話す内容をしっかりと持たせる**

○ノートに考えたりまとめたりする時間を確保しましょう。

## ■ポイント2 **すぐに指名をしない**

○子どもたちの反応をしっかり見極めてから指名をしましょう。

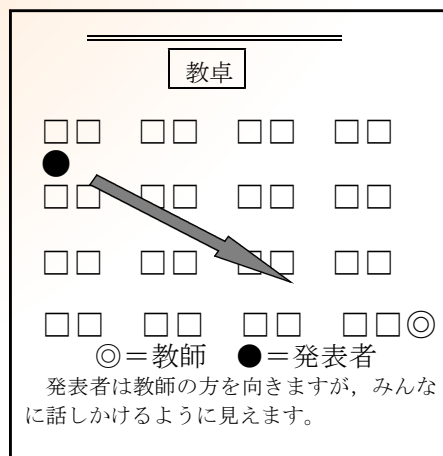
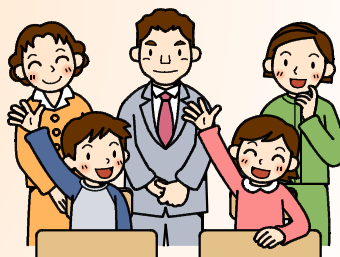
○ハンドサインも有効です。

## ■ポイント3 **意図的な指名をする**

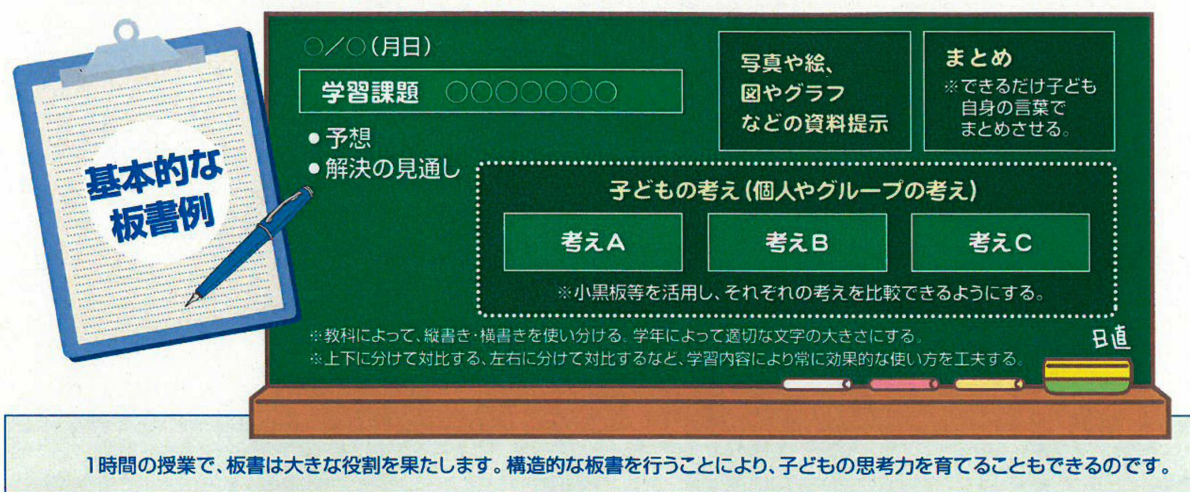
○事前にノート等から子どもの反応を確認し、意図的な指名をして話し合いを組み立て活性化を図りましょう。

### ちょっとしたコツ

- ① 挙手する習慣を身につける。
- ② 発問後、挙手数を数えるぐらいの余裕をもつ。
- ③ 1人の発表で終わらない。  
同じ意見でも発表させましょう。
- ④ 発表者に注目させる。(体を向ける)  
教師が発表者の後ろ(側)に立つと注目します。  
※教師の立つ位置を工夫することも大切です。→
- ⑤ 教師はつなぎ役になる。  
「～と〇〇さんは言っているけど、〇〇さん  
はどう？」
- ⑥ ハンドサインを工夫して活用する。
- ⑦ 時には「意見を回す(子ども指名)」こともよい。



見やすく、授業の流れがわかり、本時の学習内容がわかる板書を目指しましょう。



## ■ポイント1 教科にあった基本的な板書の形をつくる

○国語・社会・算数（数学）・理科など教科にあった形をもつことが大切です。

## ■ポイント2 あらかじめ板書計画を作成する

- 板書計画を立てることで指導の流れが見えてきます。
- 1授業・1板書とし、板書事項を精選しましょう。

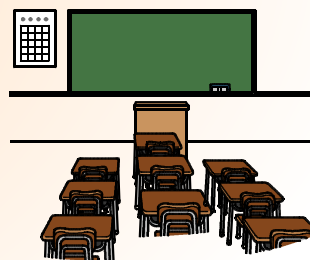


## ■ポイント3 子どもとともに板書をつくる

○子どもの意見を板書に生かしましょう。

### ちょっとしたコツ

- ① 黒板は常にきれいにしておく。
- ② 文字は丁寧に書き、線は定規を使って引く。
- ③ 色チョークを上手に活用する。  
見やすさを考慮することが大切です。
- ④ 学年に応じた文字の大きさに気をつける。
- ⑤ カードや顔絵などいつも活用できるものを準備しておく。
- ⑥ 体育でも板書を活用する。  
ホワイトボード等を活用しましょう。
- ⑦ 反応を板書するのは「すべて」か「ゼロ」かどちらか。



一人一人の子どもの見方や考えが記録されるノートづくりを推進しましょう。(みんな違ってそれでいい!)



「先生、それ書くんですか？」  
 板書しているときに、時々子どもたちからこんな言葉がでてきていませんか？そして、そんなとき先生方はどう答えるのでしょうか？  
 「書きなさい。」または「書いてもいいよ。」、あるいは「書かなくてもいいよ。」かな。でも私だったら「お好きにどうぞ」です。  
 ノートは自分なりにつくっていくものと確信しているにもかかわらず、残念なことにわれわれ教師は「子どもたちのノートに書くという自主性」を育てこななかったようです。これからでも遅くはありません、ノートづくりにちょっとだけ取り組んでみませんか？

〈ノートづくり例〉

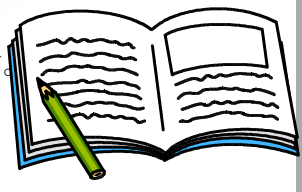
- 子どもの発達段階に応じたノートを準備する。
- 必ず記入する事項を明確にする
  - 学習日時
  - 学習課題
  - 自分や友達の考え
  - まとめ 等
- 間違いは消しゴムで消さず、訂正させる。

学習日時	確認問題等
学習課題 (めあて)	
自分や友達の考え	感想等
学習のまとめ	宿題・家庭学習

- ポイント 1 **ノートの使い方(作り方)を必ず指導する**  
 指導する時間を必ず確保しましょう。
- ポイント 2 **自分の考え等を書く時間を確保する**  
 1時間に1回はこの時間を確保しましょう。
- ポイント 3 **週に一度はノートを見、励ましの言葉を書く**  
 一言でも子どもはうれしいのです。

ちょっとしたコツ

- ① ノートを初めて使用するとき自分なりのノートづくりをする意欲を高める。
- ② 下敷きを使い、丁寧な文字でノートを書かせる。
- ③ 板書に自分の考えや友達の考えを書くスペースを確保する。  
 このスペースを自由に活用させましょう。
- ④ 記号や吹き出し、イラスト等を工夫させる。  
 ひらめき記号・はてな記号・わかった記号・残念顔等が有効です。
- ⑤ 資料添付物等はノートの中にしっかり収まるようにする。
- ⑥ ページを打ち、目次、索引などを付ける。
- ⑦ ノート展覧会を実施し、賞賛する。



全員の子どもに教師の想いや考えがしっかりと伝わるようにしましょう。



生活科での一コマです。今日は集めてきた落ち葉やドングリなどを使って絵を描いたり、飾り物をつくったり、ドングリごまなどの遊ぶ物をつくったり、子どもたちにとって待ちに待った時間です。本時のめあてを決め、子どもたちが取り組む事柄について確認して、いよいよ活動開始です。子どもたちは生き生きとした表情で取り組んでいます。ところが……。数分して、「みんな、ちょっと聞いて。〇〇はだめですよ。いいですか？」さらに数分後「ちょっと、きいてください。一つ言い忘れました。〇〇にも注意してくださいね。」その後も……。せっかくの楽しい活動もこれでは、集中して取り組むことはできません。

### ■ポイント1 **わかりやすい指示を出す**

○何を、どうするのかなど、はっきりさせましょう。

### ■ポイント2 **一度にたくさんの指示はしない**

- 指示の数はできる限り少ない数にしましょう。
- 必要に応じて、指示内容を掲示しましょう。



### ■ポイント3 **活動中や作業中に何度も指示はしない**

○必要な指示は活動・作業前にしっかりと伝えましょう。

## ちょっとしたコツ

- ① 全員を教師に集中させる。
- ② 指示する内容を吟味する。  
どんな指示が必要かを考えましょう。
- ③ 語尾をはっきり話す。  
「～をしないさい。」「～を読みなさい。」とはっきり言いましょう。
- ④ 指示後は、指示したことができるまで待つ。  
「3分間で」と指示したら3分間待ちましょう。タイマー活用も有効です。
- ⑤ 指示後は、新たな指示を追加しない。
- ⑥ 時には指示した内容を板書し、視覚的にとらえさせる。
- ⑦ 指示後の子どもの動きを必ず確認し、指示どおりできたときには褒めること。



一人一人が考えを出し合い、深め合い、学び合いの楽しさが実感できるようにしましょう。



教師の発問に対して、たくさん子どもたちが手を挙げました。教師がAさんを指名すると「ぼくは〇〇だと思います」と発表します。次にBさんを指名すると「私もAさんと同じ考えで、〇〇だからだと思います」と答えました。しかし、Cさんが「私はAさんやBさんと違って、●●だからだと思います」と反対意見を述べました。さらに話し合いが進み、しばらくするとCさんが「はじめは●●だからだと思っていたけど、みんなの意見を聞いて〇〇かなと思うようになりました。」と発言し、だんだん意見がまとまってきました。

こんな話し合い活動ができれば、授業はもっと楽しくなるでしょうね。

## ■ポイント1 「聞くこと」の指導も十分に行う

○「話をする子ども」とそれを「聞く子ども」がいて話し合いになるのです。

## ■ポイント2 話し合いのルールを定着させる

○話し合いのマニュアルを作成し、繰り返し指導しましょう。

○ハンドサインも有効です。

## ■ポイント3 話し合いの形態や方法を工夫する

○ペア、グループなど人数や構成員を工夫しましょう。

## ■ポイント4 活発な話し合いができる学級づくりに心がける

○意見や考えを話す場や機会をできるだけ多く設定し、「話すこと」「聞くこと」に慣れさせましょう。

### ちょっとしたコツ

#### ① 話す内容を持たせる。

ノートに意見を書いてから話し合いに臨む

#### ② 発表の仕方を身につけさせる。

「私の考えは～です。理由は～です。」などの話型を身につけさせましょう。

#### ③ 話し合いは、2人からはじめる。

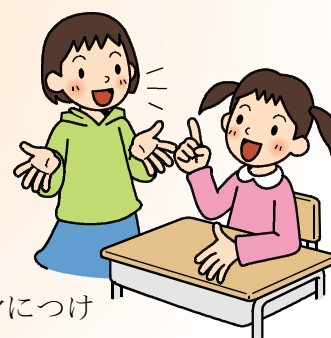
まずはペアになって、「私は～と思うけど、君は?」「ぼくは～思うよ。」から始め次に3人で同じように進めていくと徐々に話し合いの仕方が身につきます。

#### ④ 徐々に人数を増やしていく。

#### ⑤ 司会の仕方を身につけさせる。

#### ⑥ 話し合いたくなるような話題を提供する。

#### ⑦ 日頃から望ましい人間関係を醸成しておく。





【参考・引用文献】

日々の授業のブラッシュアップ Vol.1・Vol.2  
授業改善ハンドブック「授業の窓」 授業を変える  
同 授業を創る  
同 授業を磨く  
若い教師を育てる図式式授業術 〈著 田山修三〉  
あきたのそこちからー授業の基礎・基本ー  
授業改善ハンドブック「新授業の窓」  
ー授業をつくる16の視点ー

福島県教育委員会（平成18年）  
福島県教育資料研究会（平成9年）  
福島県教育資料研究会（平成10年）  
福島県教育資料研究会（平成11年）  
小学館（平成23年）  
秋田県総合教育センター（平成23年）  
福島県授業改善研究会（平成25年）